

令和六年六月五日提出  
質問第一一九号

国会議員の台湾新総統就任式出席に対する中国外交団の言動に関する質問主意書

提出者 大西 健介

## 国会議員の台湾新総統就任式出席に対する中国外交団の言動に関する質問主意書

去る五月二十日、台湾の頼清徳総統の就任式への日本の国会議員の出席を巡り、中国の大使及び大阪総領事の言動に関し、以下につき政府の見解を明らかにされたい。

一 総統就任式当日、中国大使館で開かれた座談会において、呉江浩駐日中国大使は、就任式に日本の国会議員が参加したことを「台湾の独立勢力に加担」したと批判した上、「日本が中国分裂を企てる戦車に縛られてしまえば、日本の民衆が火の中に連れ込まれることになる」と述べた。

これに対して、五月三十一日の衆議院外務委員会において、外務省は、レベルを上げて、岡野外務事務次官が呉大使に直接抗議したと答弁した。一方で、電話で抗議したのか、直接会って抗議したのかについては、外交上のやり取りであることを理由に明らかにしなかった。

しかし、過去にも外務事務次官が大使を呼び出し、直接抗議するということは何度も行われており、その時には、大使を呼び出して直接抗議したことを明らかにしており、電話だったのか、直接会って抗議したのかを明らかにすべきである。また、呉大使の発言は、極めて不適切であり、厳重な抗議をすべきものであつて、電話で済ませるべきではなく、呼び出して抗議すべきと考えるが、如何。

二 中国の薛劍駐大阪総領事は、五月二十四日付で総統就任式に出席した日華議員懇談会の複数の与野党議員の選挙区事務所に「台湾といかなる接触と往来もせず、中国人民の「台湾独立」に反対し、国家統一に努める正義の事業を理解・支持し、実際の行動を以て中日関係の大局を守っていただくよう強く希望しております」との書簡を郵送した。

1 政府は、この書簡の内容及びどの議員の事務所に書簡が送付されたか把握しているか。

2 台湾と非政府間の実務関係を維持することは、日中共同声明後も従来より認められてきたことであり、政府の職に就いていない国会議員が総統就任式に出席することは何ら問題ないと考えるが、如何。

3 国民の代表である国会議員の活動に圧力をかけるかのような行為は不適切であり、抗議を行うべきと考えるが、如何。

右質問する。